

アンケート調査結果

県政世論調査（平成21年度）
受水団体アンケート（平成22年度）

埼玉県営水道長期ビジョン有識者委員会
平成23年8月

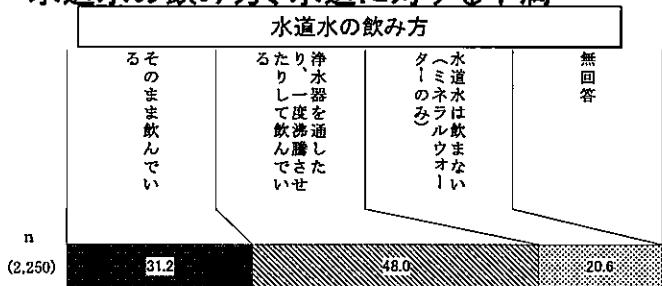
埼玉県企業局水道企画課

1

埼玉県営水道長期ビジョン見直し

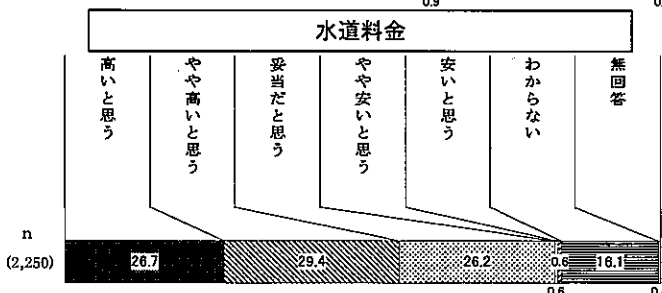
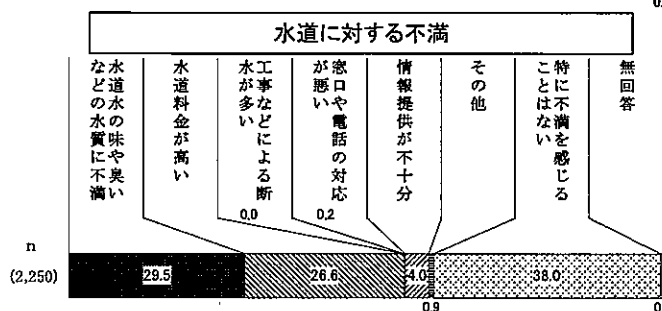
○平成21年度 県政世論調査

水道水の飲み方、水道に対する不満



①水道水の飲用について	東京都水道局 (複数回答)	埼玉県
そのまま飲む	39.5	31.2
冷やしてから飲む	31	
沸かしてから湯冷ましとして飲む	17.5	48
沸かしてからお茶・コーヒー等のお湯として飲む	55.7	
浄水器などにより浄水して飲む	43.4	
水道水は飲まない	6.1	20.6
その他	5.3	

東京都水道局 平成22年度第1回水道モニターアンケート [5.水道水の飲用について]
※回答者数:815



○水道の飲み方について、そのまま飲んでいる人の割合は31.2%となっている。一方で水道水を飲まない人の割合は20.6%となっている。
○水道に対する不満では、水道水の味や臭いなどの水質に不満を抱えている人の割合が最も高く29.5%で、次いで水道料金が高いと思っている人の割合が26.6%となっている。
○水道料金について高い、やや高いと考えている人の割合は、56.1%と半数を超えている。

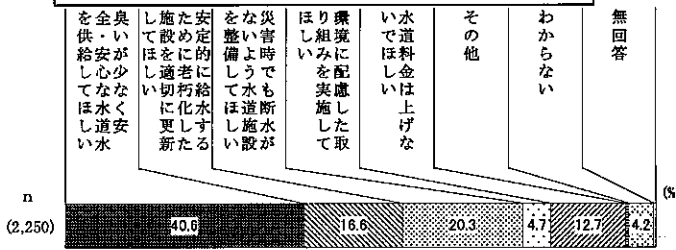
2

埼玉県営水道長期ビジョン見直し

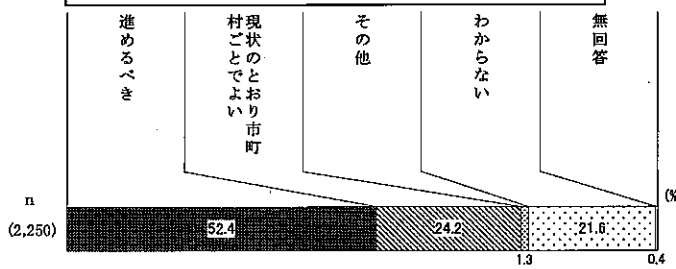
○平成21年度 県政世論調査

水道経営、広報、広域化、節水への取組

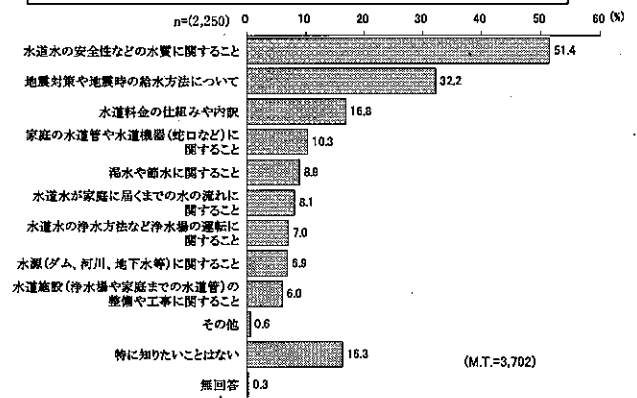
水道経営が優先する施策



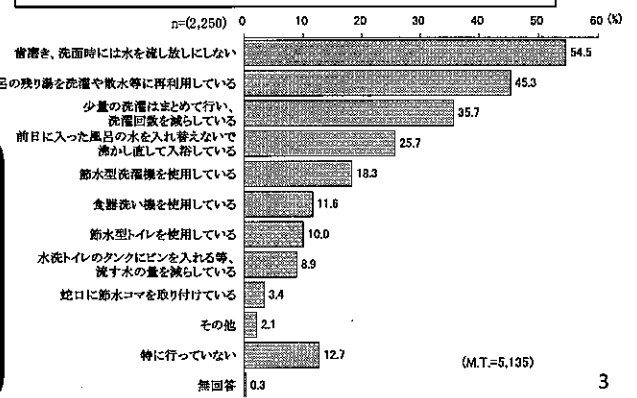
水道の広域化について



広報してほしいこと



節水への取組

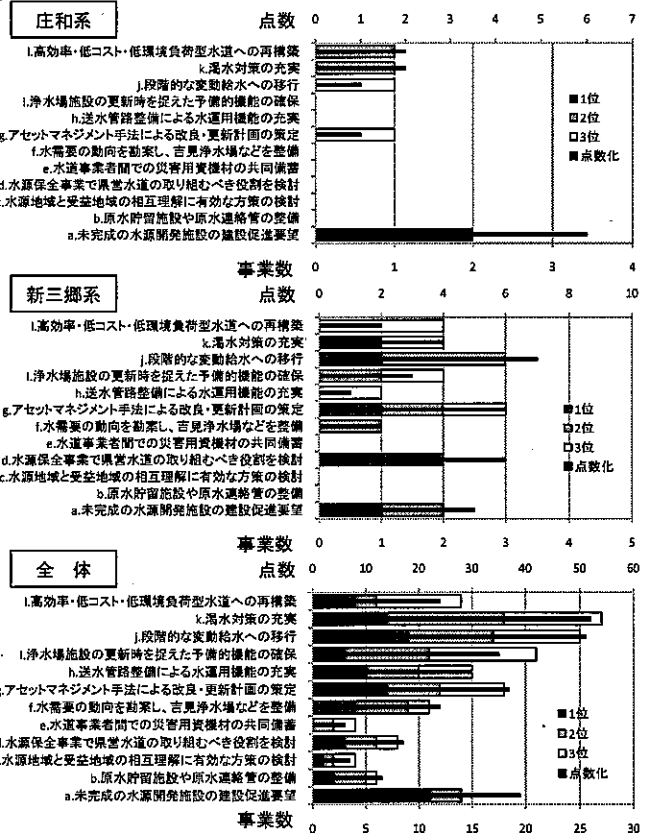
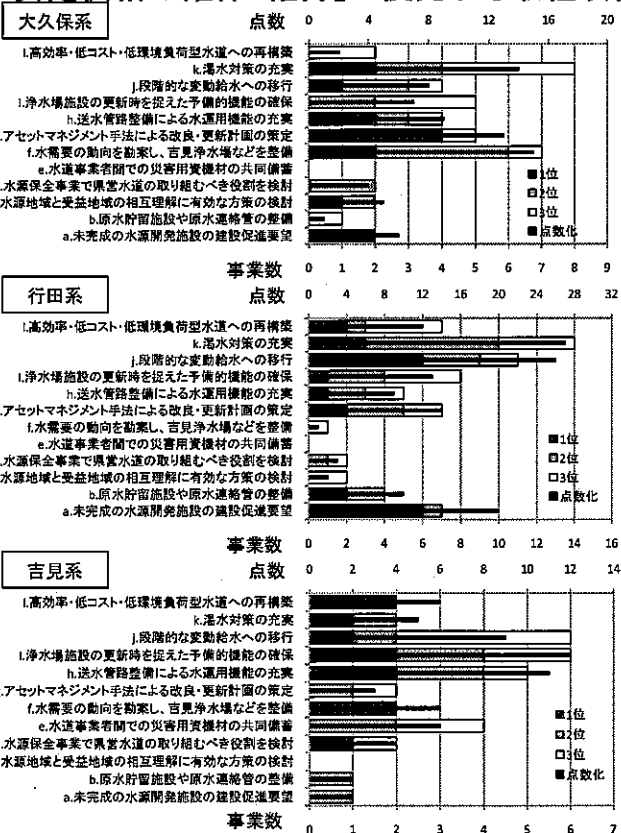


○水道経営が優先する施策として、臭いが少なく安全・安心な水道水の供給が40.6%と最も高く、また、広報についても水道水の安全性などの水質に関するものが51.4%と最も高くなっており、水道水の安全性、水質への関心が高い。
 ○水道の広域化を進めるべきとの意見は半数以上あるが、わからないとの意見も21.6%ある。
 ○節水への取組を行っている割合は87%と高い。

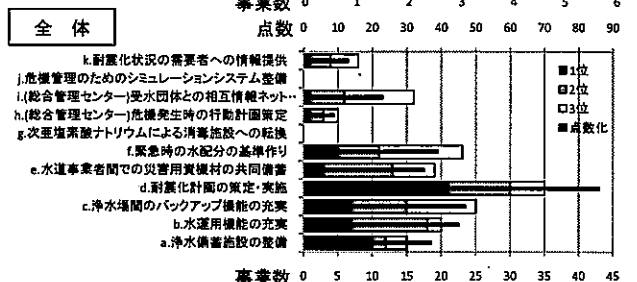
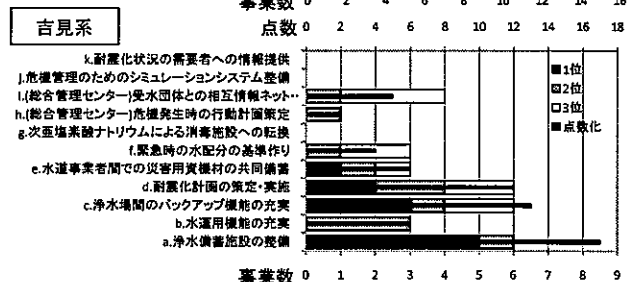
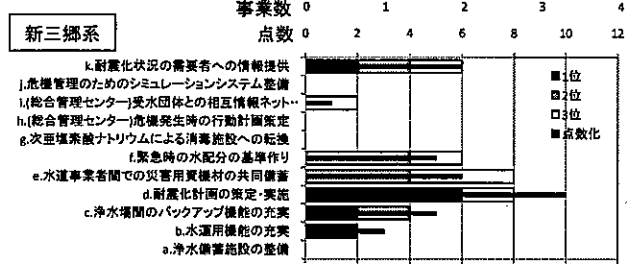
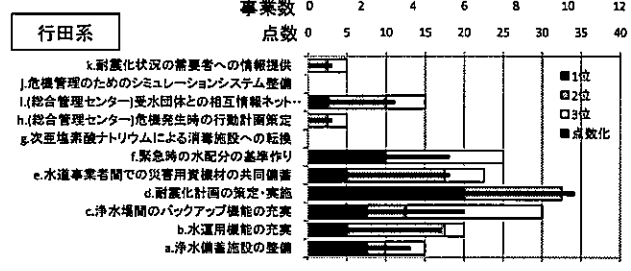
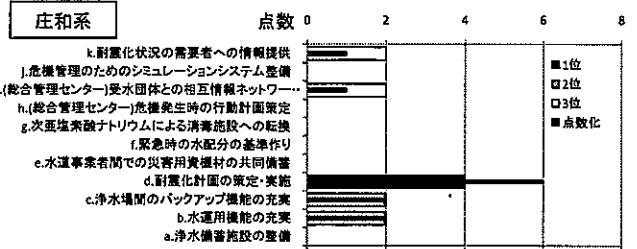
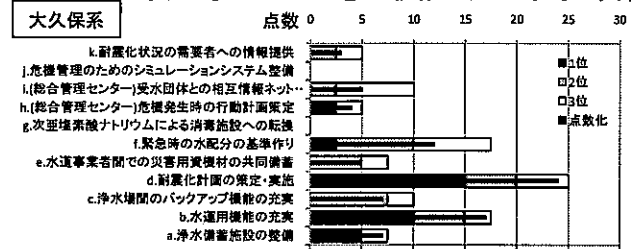
埼玉県営水道長期ビジョン見直し

○平成22年度 受水団体アンケート

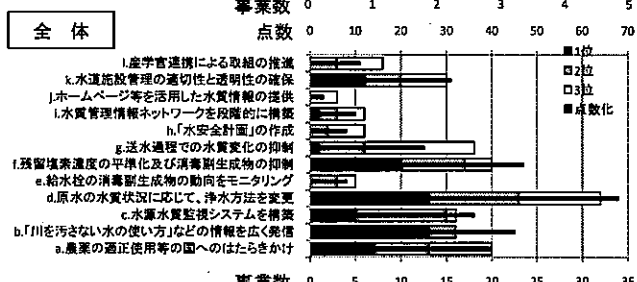
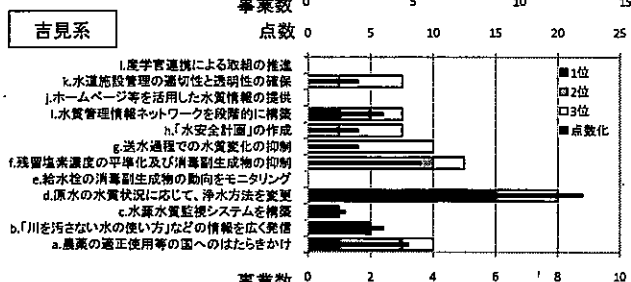
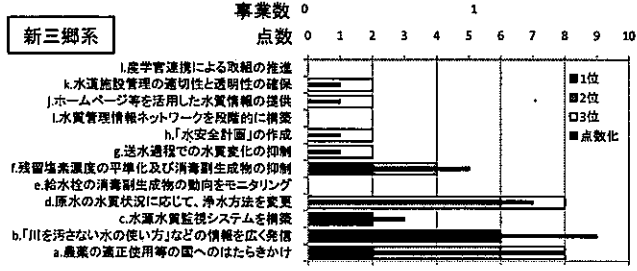
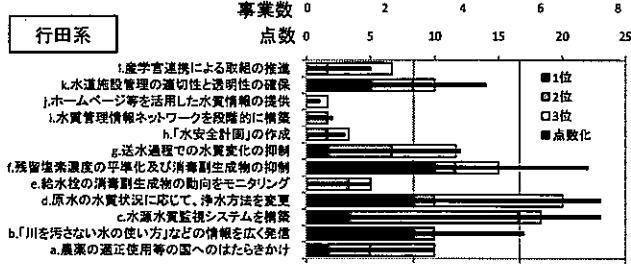
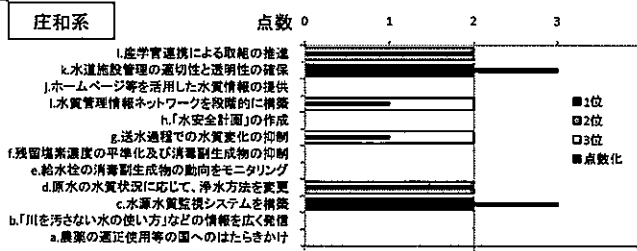
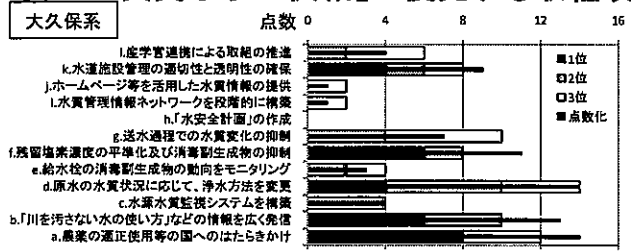
「安定供給の確保・維持」で優先する取組項目



「事故・災害に強い水道」で優先する取組項目



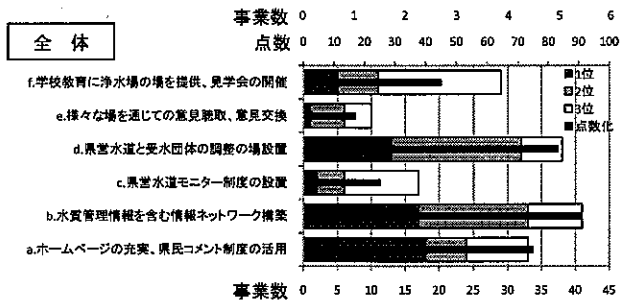
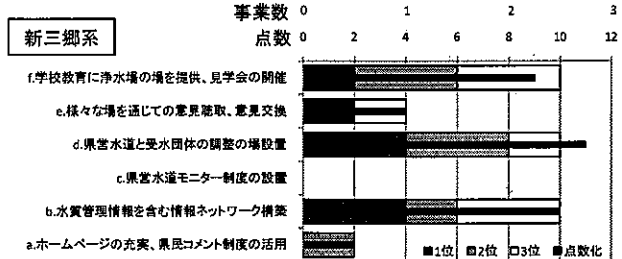
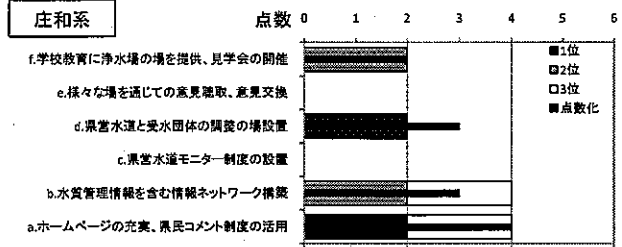
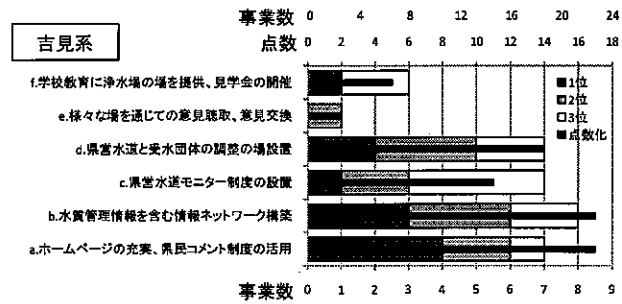
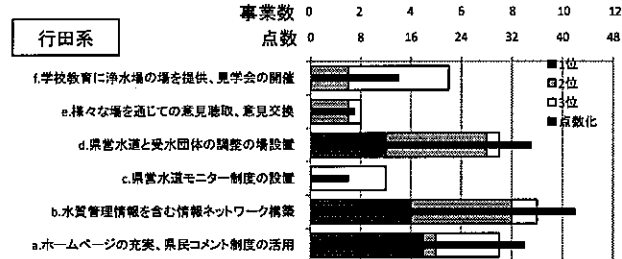
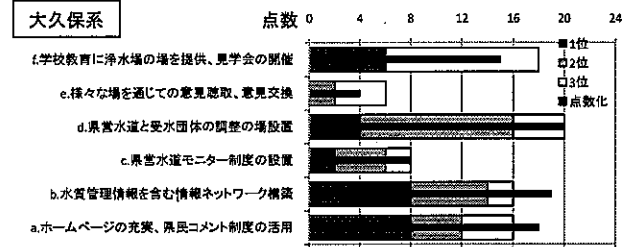
「安全で良質な水の供給」で優先する取組項目



埼玉県営水道長期ビジョン見直し

○平成22年度 受水団体アンケート

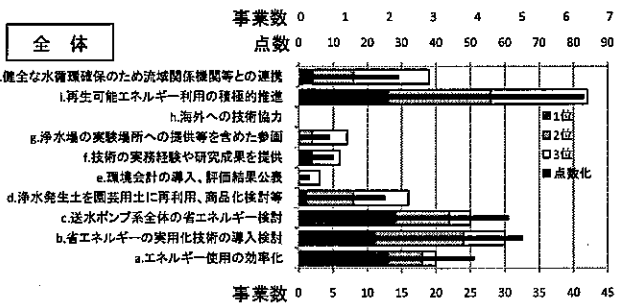
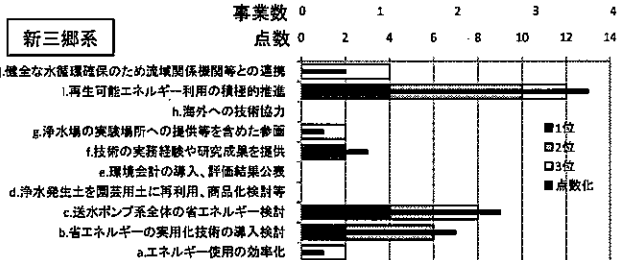
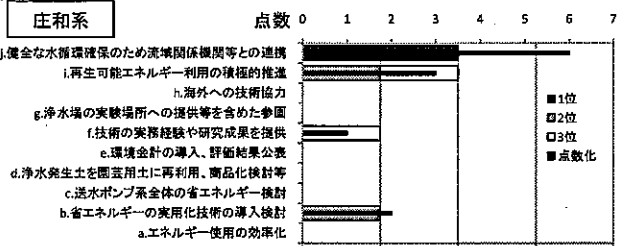
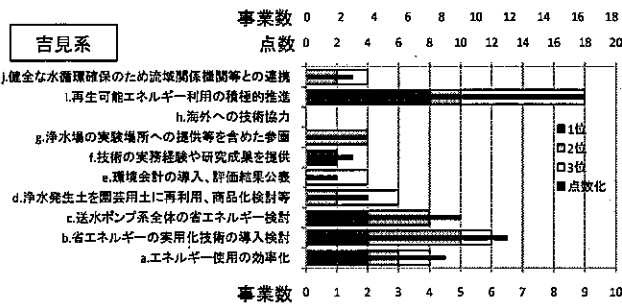
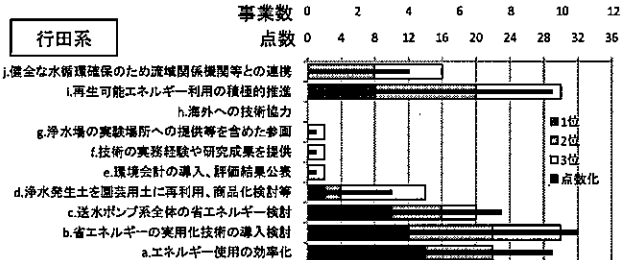
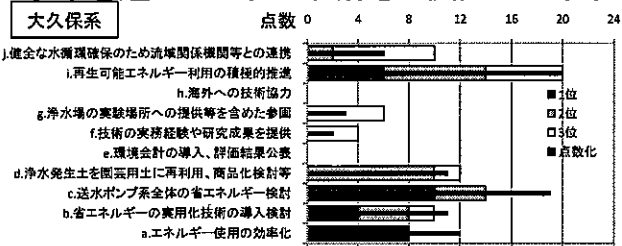
「開かれた水道」で優先する取組項目



埼玉県営水道長期ビジョン見直し

○平成22年度 受水団体アンケート

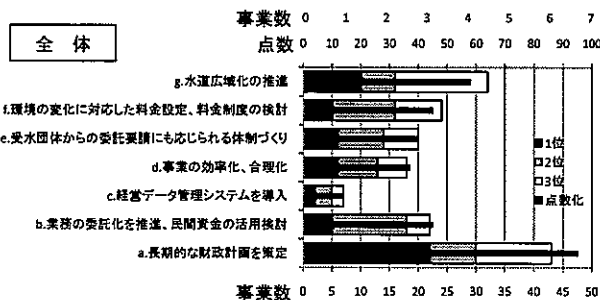
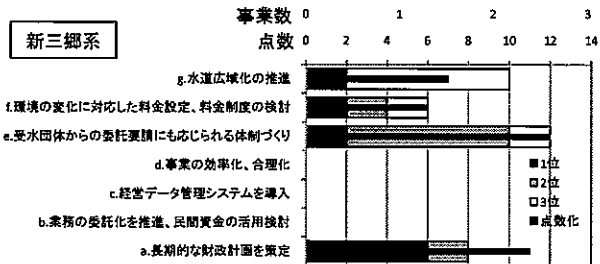
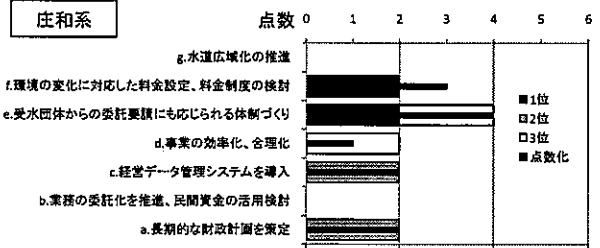
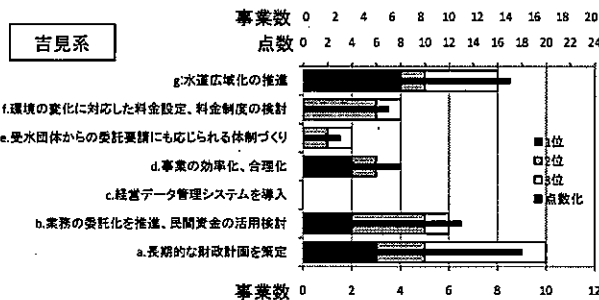
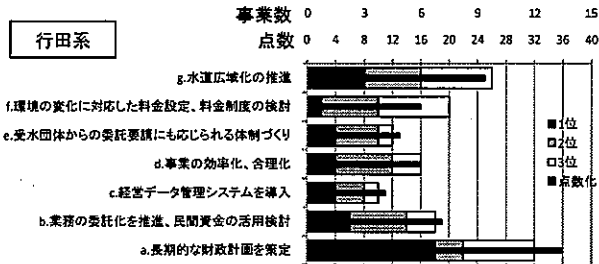
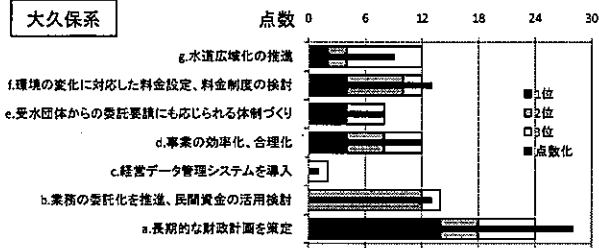
「事業を通じての社会貢献」で優先する取組項目



埼玉県営水道長期ビジョン見直し

○平成22年度 受水団体アンケート

「健全経営の維持」で優先する取組項目



埼玉県営水道長期ビジョン見直し

○平成22年度 受水団体アンケート

「安定供給の確保・維持」で優先する取組項目のまとめ

- 「未完成の水源開発施設の建設促進要望」が優先順位1位としての選択が最も多かったが、2位、3位に選ぶ受水団体が少なく、総回答数では6番目、点数化では3番目となった。
- 1位～3位までの総数及び点数化では、「漏水対策の充実」が最も多く、次いで「段階的な変動給水への移行」となっている。
- 「浄水場施設の更新時を捉えた予備的機能の確保」及び「アセットマネジメント手法による改良・更新計画の策定」についても総回答数、点数化ともに多かった。

「安全で良質な水の供給」で優先する取組項目のまとめ

- 「原水の水質状況に応じて、浄水方法を変更」が優先順位1位、総数、得点化全てにおいて最も多かった。
- 「水源水質監視システムの構築」、「川を汚さない水の使い方などの情報を広く発信」、「農業の適正使用等の国への働きかけ」など水源保全に関する項目を選択する受水団体も多かった。

「事業を通じての社会貢献」で優先する取組項目のまとめ

- 「送水ポンプ系全体の省エネルギー検討」が優先順位1位としての選択が最も多かったが、総数、点数化では3番目となった。
- 「再生可能エネルギー利用の積極的推進」が総数、点数化ともに最も多かった。
- 「海外への技術協力」の選んだ受水団体はなかった。

「事故・災害に強い水道」で優先する取組項目のまとめ

- 「耐震化計画の策定・実施」が優先順位1位、総数、点数化全てにおいて最も多かった。
- 吉見系では「浄水備蓄施設の整備」が優先順位1位、総数、点数化の全てで最も多く、次いで「浄水場間のバックアップ機能の充実」となっており、荒川右岸にある唯一の浄水場としての地域性がうかがえる。
- 「危機管理のためのシミュレーションシステムの整備」及び「次亜塩素酸ナトリウムによる消毒施設への転換」を選んだ受水団体はなかった。

「開かれた水道」で優先する取組項目のまとめ

- 「ホームページの充実、県民コメント制度の活用」が優先順位1位としての選択が最も多かったが、「水質管理情報を含む情報ネットワークの構築」も優先順位1位の選択がほぼ同程度で、総数、点数化では最も多かった。
- 「県営水道と受水団体の調整の場設置」の選択も多く、総数、点数化では2番目の支持となった。

「健全経営の維持」で優先する取組項目のまとめ

- 「長期的な財政計画を策定」が優先順位1位、総数、点数化全てにおいて最も多く、突出している。
- 「水道広域化の推進」は優先順位1位、総数、点数化全てで2番目に多く、吉見系での選択が多かった。
- 新三郷系では「受水団体からの委託要請にも応じられる体制づくり」が、総数、点数化ともに最も多かった。

